2021（令和３）年度　第１回伊賀市図書館協議会議事録

開催日時：2021（令和３）年５月26日（水）　　午前10時～11時50分
開催場所：伊賀市上野図書館　視聴覚室
出席委員：柴田会長、石橋副会長、岩佐委員、松田委員、岡山委員、前山委員、山島委員
事務局　：谷口教育長、月井事務局長、中岡教育推進監、中原いがまち分館長、福谷阿山分館長、円界大山田分館長、垣内青山分館長、小林上野図書館長、村田

１．　挨拶：谷口教育長
　　柴田会長
２．　新委員紹介
３．　議事

―事務局より資料１「2020（令和２）年度図書館事業実績について図書要覧」を説明―

会　長：意見はあるか。
委　員：学校等に団体貸出文庫は、何冊くらい一回に貸し出すのか。
事務局：1箱に15～20冊を入れたものを１セットとし、小学校向けには33セットある。33セットの中から好きなセットを選んでいただき、希望のセットを貸出している。中学校に関しては７箱を固定とし貸出している。
委　員：25ページの講座・イベント、39ページの職場体験学習と施設見学で同じ伊賀市でも人口が少ないからか、島ヶ原図書室だけない。人口が少ないから仕方がないということか。もっと島ヶ原図書室もがんばってもらわないといけないと思う。
会　長：バランスがよくないことは事実だ。
委　員：小さい部屋だが図書室はある。
委　員：イベントはないか。
委　員：島ヶ原図書室は館長が兼務だからではないか。
委　員：そのせいでイベントや職場体験、施設見学ができないということか。
委　員：　読み聞かせボランティアの方や、子育て支援の方は利用している。公でのイベントはない。
委　員：結局ないのか。がんばってもらわないといけない。つり合いが採れない。
委　員：地域に合った対応をしている。
委　員：図書館活動をもっと呼び掛けてはどうか。
事務局：島ヶ原図書室に関しては、上野図書館と一緒に行っている。館長が兼務のため、リユースなども上野図書館で案内している。公民館活動の講座なども行っている。小規模だが島ヶ原独自のものを行っている。大きな事業は上野図書館と一緒に共催の形でしている。
委　員：下部にでも書いておいてほしい。

会　長：実施館のところに書いてあればいい。
委　員：24 ページの読み聞かせ会で、島ヶ原図書室は人数が多いが本当か。矛盾しているのではないか。
事務局：図書室内ではなく出向いて読み聞かせを行っているため、イベント参加者の人数として多くなる。
委　員：令和２年度、コロナ禍でやっていたのか。
事務局：確認する。
会　長：他にも意見はどうか。
委　員：島ヶ原図書室について、少し前から運営の方法が変わったこと以外で問題となっていることや兼務にあたって、あれば教えてほしい。
事務局：２年前から上野図書館長が兼務で運営をしている。専門の職員が、公民館と兼務の２人交代で、月～金まで対応をしている。島ヶ原の住民の声として、上野図書館で借り、近くに返却するというニーズがあると聞いている。上野図書館の新刊を島ヶ原に回し、上野と連携して、新しい本を置くという工夫を行っている。
委　員：図書館の未来図で３館ぐらいになるかもしれないが、先駆けてエリア的なものを明確にしていくと後々のトラブルがないのでは。少しずつそのような形で効率的に運営してほしい。
　雑誌のスポンサー制度について、スポンサー雑誌を選べるような形にしてはどうか。今は協力してくださいという形。業種によって選べる等、雑誌を見に来る人は、その分野に興味のある人がくる。その部分を考えれば、さらに集まるのではないか。
事務局：今後検討させていただく。
委　員：島ヶ原図書室と上野図書館の館長が兼務していることは、住民に知らせているのか、一方的にやっているのか。
事務局：図書館の方から職員体制を、住民自治協議会にお知らせしている。
委　員：自分は知らなかった。広報などで伝えているのか。
事務局：広報では伝えていないが、公民館や図書館の方から職員体制は伝えている。
委　員：島ヶ原の人にも知らせているのか
事務局：住民自治協議会の方にもお知らせしている。
委　員：同じ伊賀市として、阿山から行く場合もある。それでは不親切ではないか。広報に載せるなどしてはどうか。
委　員：島ヶ原図書室を利用しているが、知らなかった。公民館と兼務は知っていたが、館長の兼務は周知されていないかもしれない。
事務局：職員体制だが、２年前までは市から住民自治協議会に公民館と図書館の業務委託し、担当の方が館長をしていたが、会計年度任用職員制度ができ、館長は市で対応し、業務については公民館と図書館を対応していただいている。地域のお知らせに職員体制を載せていく。
委　員：島ヶ原図書室については、上野図書館に所属すると明記されている。利用する人は理解いただけると思う。心配ないのではないか。

会　長：職員体制は非常に大切である。状況を知らせることが大事。要覧に書いた内容を市民に知らせる方策を考えるということでどうか。

委　員：未来の図書室、来年４月には、公民館が閉鎖される、図書室が３つになるなどが新聞に載っていたが、利用者は知っているのか。図書館は生活の一部になっている。それがいきなり４月から図書室が利用できないなど、特にいがまち図書室は不明。１月になると阿山図書室が閉まる。利用者の方から、阿山図書室で多数の除籍図書があり、何かあるのかと聞かれた。閉館になるからなどは少し伝えた。雑誌も去年と比べ少なくなり、困るという意見がある。今くらいから徐々になくなることを知ってもらわないといけない。生活の一部だからこそ、いきなりでは困る。伊賀市の細部まで考えてほしい、遠い地域の文化的水準が下がる。心配だ。来年はどうなるのか。木である上野だけを見るのではなく、伊賀市全体の森を見なければ、発展しない。配送サービスも、図書館らしくない いがまち図書室と大山田図書室で、これだけの利用数を持っていることはそれだけ利用する方がいる。せめて返却できるようなシステムを考えてほしい。住民の生活レベル、知的分野の向上を考えてほしい。利用者にとって、図書館は生活の一部だ。

事務局：図書館を３つにする案は、支所をどうするかの話も絡んでいる。支所を廃止するなどはまだ市としては決定していない。来年の ４ 月から図書館図書室としても見分している段階である。決まり次第、早い段階で市民のみなさまにも説明する必要がある。また配送サービスや、デジタル的な予約システム等整備する必要もある。不便をかけないような身近で使っていただけるような状態も考えていく必要がある。

委　員：たぶん財政が苦しいので、カットされていく。お金さえあればもっと内容を充実させていけるが、少ない財政でなるべく多くの人に利用してもらえるように考える。長崎の遠いところでは巡回図書館をしている。60 代くらいだと上野の図書館に来られるが、80 歳になった時に来れるか。閉鎖するだけでなく、巡回バスで回るなど代わりの案を考えてほしい。

会　長：３館体制の話は、少し前からこの協議会で出ていた。それに対して、どう考えていくかは、上野図書館が新しくなることとあわせて、伊賀市全体の図書館システムを考えることを課題にしていきたいと思う。図書室のこともよく考え、進めてほしい。

委　員：島ヶ原図書館の館長のことなど、近隣市町村含めて、そのことを知らせていくと、親切だ、利用してみようと思う。島ヶ原の人は上野図書館を利用するので、島ヶ原図書室は利用しない。資源の統廃合も考えていかないといけない。無限に財源があるわけではないので、図書館を残さないといけないばかり、使っていないのに残す、本も増やす、館長も兼務でなく、統廃合の議論をすべき。島ヶ原の人などを巻き込み議論すべきだ。

会　長：３館体制の話がいろいろ出てくると思う。市民の声をどう聞くのかという話だと考える。協議会メンバーとして、市民の意見を聞いて、ここに反映し出していく。

委　員：島ヶ原図書室の課題で、上野図書館の本を借りて、島ヶ原図書室で返すことはできる。島ヶ原図書室の図書は少ないが、市内にある図書を回していければよい。利用

者のなかでも市内の図書館図書室から借りられることや、取り寄せられることを知らない、県内外の図書館から借りられるサービスを知らない方もいるので、職員体制を知らせるのと同じように、できるサービスの広報も一緒にお願いしたい。

会　長：配送、他館との相互貸借など、やっていることを知らせるということ。

委　員：図書室のボランティアであり、図書館職員でもある。小さな図書室だから、１対１でお客さんと話ができ、コミュニケーションがとれる。メールでの受け取り確認やＯＰＡＣの使い方も教えられる。上野図書館では本の貸出だけで終わり、あまり声を出せない雰囲気がある。ＯＰＡＣの使い方など困っている人に説明できる人がいると便利だ。今後、将来的に書架にある本をインターネットで予約できるようにしてほしいという意見もある。新しい図書館では、自動貸出や自動返却など、世の中の流れに乗ったものにしてほしい。武蔵野プレイスのように雑誌場所の前にカフェがあり、コーヒーを飲みながら読むなど、いいなと思った。

会　長：システムは少しはあるが、知らされていない。それを知らせるためにもっと図書館員が関わっていいのではないか。基本的に図書館の専門司書が少ないのが問題。

事務局：配送サービスや相互貸借について、２月に各住民自治協会に図書館の在り方などを説明した際、サービスを知らない方がいたため説明をした。いがまち図書室ではフロアマネージャーのような、丁寧な対応をしていただいている、上野図書館でも丁寧に個別にレファレンスの範囲でサービスを心掛けている。またスタッフにも伝えていく。在架予約（今図書館にある本を予約できる）サービスで、自動貸出等、新図書館では考えていきたい。

会　長：令和２年度の図書館の状況を見ながら、我々が次の図書館に何を期待するか。

委　員：図書館の利用に関して余談かもしれないが、自治会といっても温度差がある。広報に載せてほしい。インターネットの活用をもっとという意見があったようだが。

委　員：インターネットでの予約を書架にあるものもできるようにしてほしい。

委　員：もっともの意見だが、年寄はできない。親切に教えてくれる人が欲しい。

会　長：いかがか。来年度の要覧に期待してこの話を終わりたい。
次の議題 ワークショップについて、報告をお願いする。

―事務局より資料（２）「図書館ワークショップについて」を報告―

会　長：当日参加の副会長の意見、感想をお願いする。

委　員：第１回、第２回とオブザーブして、１回目より２回目の方が若い方も増えた。３回目はコロナで残念だった。要約すると主流は同じ。図書館で飲食ができる、突拍子もないところでは、お酒が飲めるなど。闊達な意見が出ていたので良かった。前の図書館計画書の時もそうだったが、出来上がってからするのではなく、今この場で出来るものがたくさんある、現在上野図書館の開館時間が９時から７時となっているが、これも計画書を作るときにアンケートで多かった。新しい図書館でなくても今できるということでそうなった。図書館の横の駐車場でカフェ併設のシミュレーションをして

みて、問題がでてくるなどをシュミレートしてみる。期間限定、月１回でもいい。要望を、今この場で出来ることを努力してもらいたい。

会　長：私もオブザーバーとして参加した。若い人たちの意見が面白い。みなさん新しい図書館についてよく知っている。伊賀にもほしいというのがあった。システムとしての図書館を考えないと、市民の立場に立つことはできない。伊賀市民である限り、同じ図書館環境が受けられるようにしないといけない。そのために新図書館はどうするべきかという話を今後、しないといけない。先ほどの報告でもあったように、みんな参加したい思いがある。参加できるシステムを今の時点からシミュレートしてやってみるようなことを考えてみてもよいのでは。今までの報告を聞いて意見はあるか。

委　員：期間限定でカフェのようなものをする意見は賛成。本を読んだら、休憩がいる。食べながら読むなど、市民の関心を集めるには良い。良くない点は、本が汚れるかもしれない。その点をどうクリアするか。大阪には飲食しながら本を読んだり買ったりするところがあるのでそこへ行って話を聞くのはどうか。

報告書の２ページ、図書館にないものとして、男性司書、待遇がよくない、13ページにも職員、司書がいない意見がある。男女共同参画推進の国の方針もある。なぜかもっと考えてほしい。なぜ男性司書が少ないのか。待遇が悪いのか。私からすると女の人ばかりの司書は行きにくい。ちゃんと話してくれない。冷淡な面もあるので、男性司書を増やしてほしい。

会　長：一つの考え方だ。私も大学図書館で司書をしていた。司書過程で司書も育てていた。

委　員：試験があるのか。

会　長：各自治体が行っている

委　員：男性は採用されにくい面があるのか。

会　長：試験を作った経験から言うと、結局女性の方が優秀だった。

委　員：女性の方が優秀。女性の方が世の中優しいからいいということではないか。

会　長：私の感覚だが。今の伊賀の図書館では司書が１人だけ。２人、３人にしないと、複数館体制を作るには無理だ。教育委員会で動きつつある。将来は男性職員が入ってくるはず。年齢、性別関係なく、みなさんをサポートする司書が増えてくるだろうと期待している。

委　員：男女共同参画と言っているから、平等に。伊賀市は男性の司書がいない。その辺をもっと考えてほしい。

会　長：図書館の将来のことで職員の問題は一番大事だ。

委　員：３つのエリアに図書館がなった時、上野図書館は司書資格を持った方が多いが、図書室には司書資格を持った方が採用されるのか。新図書館の運営体制など、何も報告がない。司書がいると本の並べ方などもわかる。司書が図書室にもいることが大事だ。採用にもよるがフォローはできる。

事務局：今後新体制にあたり、住民のみなさまへのサービス低下にならないように考えていく。

会　長：ワークショップはあくまで新しい図書館を作っていくためにどうするかという流れにある。それを考えるのが参考資料１と２及び資料 2-1 である。

―事務局より資料２、参考資料１、２を説明―

会　長：この流れで進めようということだが、いかがか。
委　員：前回の会議でデジタルブックも購入すると言っていたが、オーディオブックも加えてほしい。目で読むことが辛くなってきた。最近は YouTube などでオーディオブックが発達していて、楽しい。しかし経費が掛かる。読み聞かせの人員を確保するのも大変だと言っていたので、最初から読み聞かせているものも検討してほしい。
事務局：検討していきたい。
会　長：多様な資料。形態は本でなくとも構わない。障がい者のことを考えても入れるべき。
委　員：高齢化により、なんらかの形で障がい者となる。昔ほど本が読めなくなってくる。
委　員：オーディオブックの話がでたが、年を重ねて目が見えにくくなるというのは、誰もが通る道。オーディオブックは 1 冊揃えるのにお金がかかる。点字図書館で録音図書を制作している。図書館の窓口で借りていただく。図書館に置き、体験していただいてもよいのではないか。
委　員：点字図書は目が見えている人も借りることができるのか。
委　員：基本的に活字の本を読むのが大変とかいう人がいたら、それを耳で聞く録音図書を利用するのも一つの方法ではないか。
委　員：点字図書館に健常者が行き、拒絶されることはないのかということ
委　員：誰が録音図書を借りられるかということは、公共図書館のきまりがある。全国的に公共図書館で録音図書を借りている方は多い。点字図書館は基本的に障がいのある方とのやり取りが多いが、使っていただくことは可能。
委　員：オーディオブックを希望する意味は、旧来からの朗読資料は、昔からの名作小説に限られる。新刊の社会性のあるものはほぼない。オーディオブックはお金を払えばある。お金と著作権の問題がある。
会　長：点字図書館もいろいろ活動している。そのバックアップを図書館がすると考える。
事務局：上野図書館では２年前から点字図書館と連携し、録音図書をサピエ図書館という全国のネットワークで、上野図書館でも借りることができる、公共図書館の窓口から取次をするサービスをしている。周知はまだ十分ではない。令和元年度に、読書バリアフリー法ができ、障害のあるなし関わらず、視覚、聴覚的な不自由なところをなくしていく法律ができた。伊賀市には点字図書館もあり、バリアをなくしていく取り組みを伊賀市としてもしていくことを考えている。
会　長：図書館と点字図書館を位置づけたらよい。そうすればどんどん使えるようになる。
委　員：参考資料２、図書館サービス計画の説明の際に、民間活力を導入すると話があった。活動はいいが、最終的な責任は行政が持つと言ってほしかった。責任まで民間に押し付けることはしないでほしい。責任は行政が持たないといけない。

会　長：参考資料１に、運営体制は直営とすると記載してある。直営とは、伊賀市が責任を持つということだ。

委　員：民間活力を利用することには異論はない。最終的に民間は責任をとれない。

会　長：すでに我々は検討している。

委　員：将来の北館図書室だが、森精機が建てるという話、中に支所が入る、北館の図書室の運営はどこがするのか、心配である。

会　長：伊賀市に複数の司書がいれば、北館、南館、本館３つの館にそれぞれ司書を配置できる。そうすれば直接的な指令をだせる。伊賀市の場合、そこまで司書を雇えるかどうか。北館、南館が違う運営形態になってもできる。桑名市の図書館を管理したことがあるが、本館はＰＦＩ。分館は直営。いろんなやり方がある。司書を配置して図書館らしい図書館にすることは大事。先ほどの意見で、事前シミュレートというのがあったが、図書館祭りなどでにぎわいなど違ったことをすることを考えてもよいのではないか。同じＰＦＩの愛知県大府の図書館では、毎年図書館祭りをやっている。やれないことはない。やるように我々が転用していけばいい。市民からの意見があったことはワークショップで明らかになっている。どんどん試みてもよいと思う。

委　員：上野図書館は直営とするが、阿山図書室や島ヶ原図書室は小さいから業務委託にする。上野に何でももっていく、郊外は切り捨てという議論もある。そういうことがないよう確約をもらいたい。上野中心だと、名張に行く人もいる。何もかもを上野。市町村合併の時もそうだったため、名張市は住民投票し合併しなかった。ますます郊外は不便になるのではないか。

事務局：伊賀市全体で考えて、周辺の市街地以外に住んでいる方へのサービスが行き届くようにと考えているが、具体的なことはまだ決まっていない。

会　長：要求水準書を作る過程で、利用者の意見を反映しないといけない。将来は伊賀市としては３館体制、その時にはどのような形で伊賀市内を図書館のバスを走るのか、いろんな話を含めてやっていかないといけない。愛知県大府市は図書館が遠いからバスを走らせたが、利用する人が変わってきた。病院を利用する人が多くなり、病院体制に時刻を合わせるようになり、図書館から帰る時間にバスがないということになった。利用実態をよく見て、図書館のために走らせたバスは図書館に合わせてやっていかないといけない。

ワークショップ及び新しい図書館の流れについて何かあるか。今のところ、伊賀市から業者に要求水準書を渡し、それに対し業者から提案を受け、その提案を審査して考えるという、１年２年の流れで進んでいく。

委　員：業者を選定するとき、業者は利益の追求をしていくと思うが、条件が合わない場合、この条件はなくしてという交渉になるのか。

事務局：参加事業者からの質問に対する回答など、対話をする機会がある。伊賀市がしたいことを伝え、事業者が聞き、事業提案をしてくる形となると思う。

委　員：条件が厳しければ、乗ってくる業者がない可能性もあるということか。

事務局：計画は最低ラインだと思っていただいて、それを上回る提案を求めている。厳しければ業者は少なくなると思うが、応えてくれるサービスの方が上回っていると思われる。それよりもいい図書館になることを期待している。

会　長：業者が途中で降りてしまうこともある。要求水準を持っておかなければいけない。伊賀市全体の図書館システムを想定したものにしておかないといけない

委　員：図書館にはカフェをいれるでよかったか。フロア図はわからないが、カフェの周りには雑誌を配置し、その雑誌にはスポンサーになった上野の企業名があれば、雑誌を　読みながらこんな企業があるんだというのがわかる。雑誌代も助かる。カフェはカフェだけでなく、スポンサー制の雑誌を置いてはどうか。これは武蔵野プレイスの配置だが、前には広場、白い椅子があり、子どもが遊べていい雰囲気だ。

会　長：図書館以外の施設もいれても構わない。図書館の資料と繋ぐものを作るということ。

委　員：図書館を作ろうとし、ワークショップ等意欲的な意見がでてよいと思う。ただ現実はスマホやネットが便利になり、活字離れしている。その人たちが違う魅力で図書館を訪れて図書に触れる多様的なものになれば、自然に本の魅力を知ることができるのではないか。上野ばかりが中心というのもわかるが、シンボルとなるものができた方が良い。そこに行けばなんでもあるなど。身近な地域ではいろんなサービスを受けられるよう、交通の便等を考えていけばトータル的に廻るのではないか。支所もなくなり、図書館もなくなると、高齢者が使いにくくなる。タクシー並みにバスなどが走り、中心に流れるようなシステムになればよいと考える。

委　員：もし万が一、業者との交渉となった場合、伊賀市のホームページに交渉段階ということを明示するのか。公開してもよいのではないか。

事務局：事業者との対話について、必要に応じて公表していく予定。

委　員：安心した。秘密にすることのないようにしてほしい。

会　長：市民と一緒に作る図書館を目標に今後の新しい図書館計画を作っていただきたい。今後の話だが、図書館協議会の任期が 7 月末となっているため、次の協議会ではメンバーが変わっている可能性がある。みなさん伊賀市の市民なので変わらず発言をしてほしい。

事務局：熱心な議論ありがとうございます。ワークショップ同様、図書館へのいろんな思いを出していただいた。それが現実になるといいと思う。そのことを業者の方が具現化していく取り組みを行政としていかなければならない。伊賀市として中心となるような図書館、市民の方が集える、コーヒーも飲める、学ぶことができることを基本計画通り反映していく。ワークショップでも同じような意見をいただいている。基本計画に入れて、提案をしていきたい。一方で、分館の方はどうなるのか、３つに分かれていく中で、寂れていくのではないか、寄るところがないのではないかという不安な意見も聞かせていただいた。代わりに循環バスを走らせたり、高齢者が行けない場合は近くへ来てもらえたらよいなどの意見、行政としてサービスを落とすことのないようにしていきたい。ただ、市の支所の再編との絡みがある。今後、再編がはっきりしてくれば、分館としての機能の代わりとなるものがあるのか、分

館と違う形で残していけるのかという話もさせていただければと思う。まだはっきりしていないので答えを伝えることができない。思いとしては聞かせていただいた。今後の政策にいれていきたい。今後、図書館協議会を開き、また審議いただくことになる。よろしくお願いしたい。